



さきがける

科学人

Vol.37

多様なつながりを大事に、技術で未来環境を創造



Kanako Tanaka

田中 加奈子

科学技術振興機構
低炭素社会戦略センター(LCS)
主任研究員

Profile

東京都出身。東京大学工学部化学システム工学科卒業。同大学院博士課程修了。博士(工学)。英国ティンダル気候変動研究センター、国際エネルギー機関(IEA)などを経て2010年より現職。IPCC評価報告書著者、内閣府CSTIエネルギー戦略協議会構成員、産業構造審議会・地球環境小委員会委員など。3児の母。山田興一氏との共著に「電力危機」がある。趣味：ガーデニング、パステル画

技術を使って環境を守る

生まれも育ちも東京です。幼稚園のときから習い事で飛び回っていました。ピアノ、声楽、日本舞踊、極め付きはタレント活動。劇団に所属する子役で度々テレビや舞台に出していました。今もバランス感覚よく動き、スピーチなどでも乗り切れるのは、そのおかげかも。

環境に興味を持ったのは中高生の頃です。自由研究でも環境について発表しました。大学に入ってしばらくして「エネルギーや環境にいい技術が自分たちの暮らしにもっと使われる社会にしたい」と思い、化学システム工学を専攻しました。転機は4年生の研究室選びのとき。当時、学科教授の山田興一先生(現LCS副センター長)が紹介されたテーマ「環境調和型都市の構築」が私の心をとらえました。

「私がやりたかったことはこれだ」。他にも希望者が数名いて、最後は人生で一番気合いの入ったじゃんけんで勝ち抜きました。その後も「技術を使ってエネルギー使用をどう最適化し、どう環境に良い明るく豊かなシステムを構築するか」という視点で研究を続けています。

特に、温暖化の科学的な研究と評価をする「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」に参加し、第3次報告書(2001年)から第5次報告書(2014年)まで、代表執筆、査読や編集、会合での交渉などに幅広く関わりました。

今は、日本の進んだ技術を移転して、どう国益や地球益に結び付けていくかがテーマです。環境保護と経済・産業発展、暮らしの豊かさの両立が大切です。

地球環境問題は領域が多岐にわたり、各分野に専門の研究者がいます。1つの研究をひたすら深化させていく研究者が多い中、私は全体を俯瞰し、さまざまな領域を結び付ける学際的な方法を取っています。ただ、化学工学的な考え方が基本思考にはあると思います。対象が地球環境でもシステムとして見れば

各種要素に分解され、熱や物質をやりとりしていることに違いはないのです。その中で何の影響が支配的なのかを見抜くことが大切です。「こういう考え方で世の中をみればわかりやすい」という自分なりの見方を若いうちに身に付けると、さまざまな場面で応用がききます。私の場合、それが化学工学でした。



家族と過ごす休日。私が環境問題に取り組めるのも、子どもたちのおかげです。

プライベートと研究のうまい配分を

女性研究者は、家庭、特に子育てと研究は両立が難しいと思われがちです。でも、それは「両立」の考え方によるのでしょうか。どちらかを犠牲にしている感覚は私にはありません。自分の中で配分を決めているから。全体を見ながら、バランス感覚を大事にして「いい加減」でやっています。子どもは何より輝いている大事な宝物ですし、子どものおかげで環境問題に取り組む意欲が高められます。もし、立ちどころ壁があったとしたら、それは行く手を阻むものでなく、乗り越えるための壁です。楽しんで乗り越えましょう。

休みの日は、よく家でパーティーを開きます。子どもの誕生日会だの、バレンタインだのと理由を付けて。ホストに徹するのが好きです。さまざまな分野の方々と時間を共有し、友達のネットワークが何層にも広がるのがうれしいのです。これもある種の研究や社会観察かもしれません。出会いや感動の経験も、世の中をどうよりよく変えていくべきかを考えるヒントになります。どんな経験も無駄になりません。そういう時間をずっと大切にしていきたいです。

気候変動緩和や省エネ・エネルギー効率性向上に関わる技術、システム、政策の設計と評価

地球環境を守りながら、持続可能な社会の発展を目指しています。高効率産業プロセス、省エネ型家電、太陽電池など各種技術を生かして、エネルギーの効率的な使用を進めるシステムや政策を設計し、評価する研究です。低炭素社会のためのシナリオとして「温暖化対策における技術に着目した統合的貢献アプローチと他国への技術協力の在り方への提言」があります。



TEXT: SHIGS PHOTO: 田中昭俊(麹町企画)



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

270
古紙/バブル配合率70%再生紙を使用

JST news

May 2015

発行日/平成27年5月7日
編集発行/国立研究開発法人 科学技術振興機構(JST) 総務部広報課
〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ
電話/03-5214-8404 FAX/03-5214-8432
E-mail/jstnews@jst.go.jp ホームページ/http://www.jst.go.jp
JST news/http://www.jst.go.jp/pr/jst-news/



最新号・バックナンバー